

輸出事業計画

※申請者名：(株)大石茶園、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

弊社は平成24年（2012年）から輸出に取組み、商社には頼らない直接輸出を進めている。取引の状況は年々売り上げを伸ばしているが、現在、海外の急激な抹茶ブームにより、全国적으로お茶の製造会社には海外からの問い合わせが急増し、国内の抹茶原料の「碾茶」が不足するという状態が発生している。当社においても海外売上高（主に抹茶）が急増しており、当社内も碾茶の原料が不足し、海外からの要請にすべて応えることができない状況となっている。

【課題】

（生産）

- ・現状海外向けの原料の取り合い状態となっているため有機茶の確保、抹茶原料の確保「碾茶」が必要である。（加工）
- ・個包装の粉体受注が増え加工時間がかかる。
- ・確保した碾茶の生葉を荒茶にするための加工場の確保が必要である。

（流通）現状コンテナの確保が希望通り取れない可能性もあるため輸送コンテナの確保が必要である。

（販売）

- ・現状海外販売は伸びては来ているが更なる売上向上のためには既存販売先への増加が必要であり、相手先の要望の多様化に対応することが課題。
- ・売上の増加並びに新規取引先の開拓が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組】

（生産）

- ・八女地区での緑茶生産農家様と専属契約を進め、碾茶への変更をお願いし碾茶の専属的仕入れルートを確保する。
- ・休耕地、又は高齢による工作が難しい茶畑を自社で購入、又は借受農地として碾茶栽培農地を増加させ碾茶を確保する。

（加工）

- ・自社、又はグループ会社にて碾茶工場を建設するとともに、碾茶ライン・付帯設備を整備する。
- ・個包装の対応は出荷を急ぐ場合、他部署の支援を受け対応する。

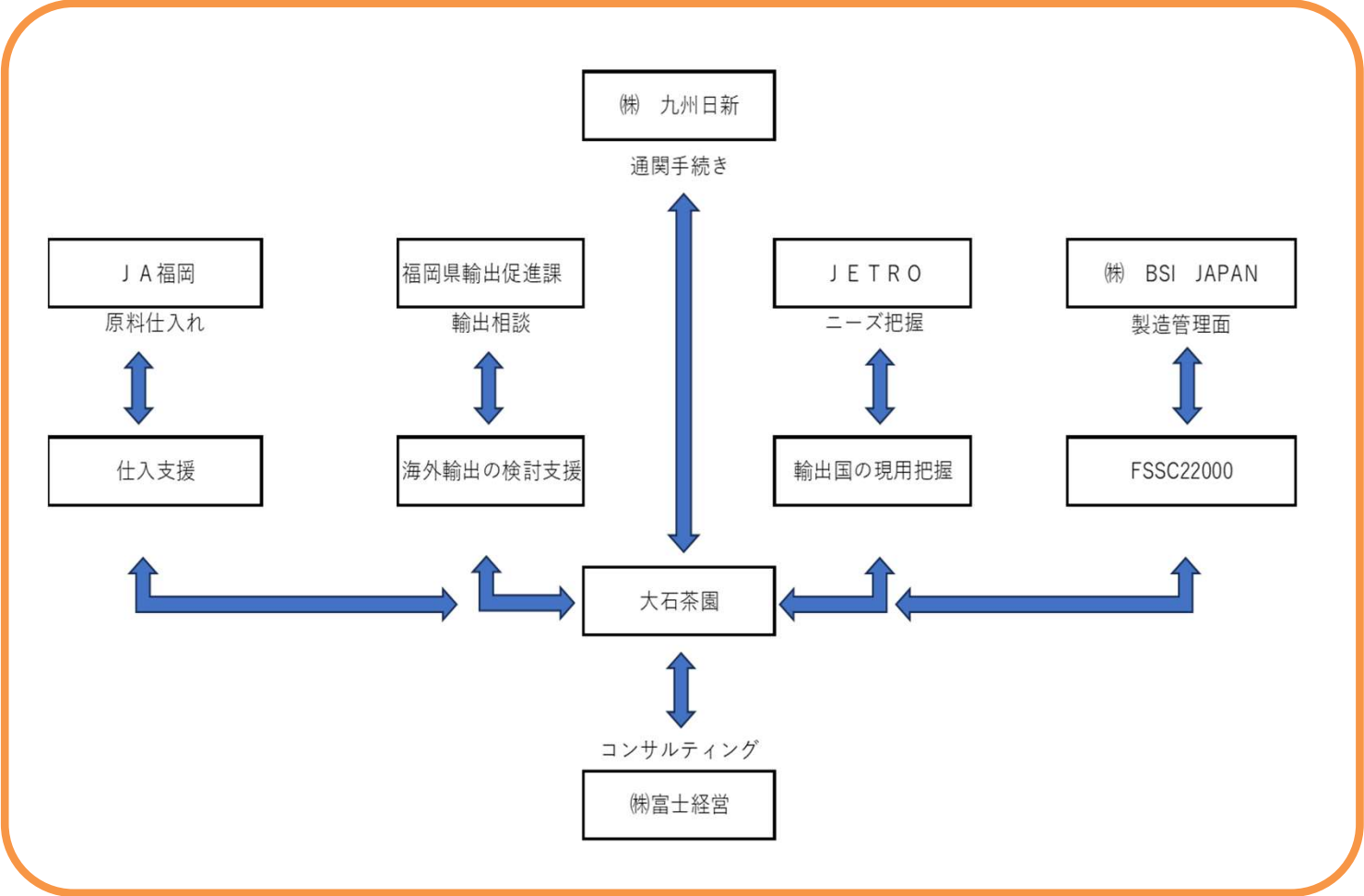
（流通）大手総合物流企業に輸出事業のパイプを作りコンテナの確保に努める。

（販売）

- ・原料商品の種類を増やし営業時相手先のニーズに応じた適切な提案を進める。
- ・海外に取り入れやすい商品（飲料原料、菓子原料等）を提案する。
- ・現有取引先のパイプを使った販路先を拡大する。
- ・当社で雇用している海外出身の従業員の出身言語を活かし新規開拓をする。

輸出事業計画
※申請者名：(株)大石茶園、品目：茶

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

対象品目：茶・抹茶

	現状 (令和4年)	目標 (令和10年)
輸出額（千円）	217,297	969,030
輸出量（kg）	96,763	225,922
輸出先国	台湾、タイ、マレーシア、カナダ、 ニュージーランド、オーストラリア、 イギリス、アメリカ、シンガポール 他9か国	台湾、タイ、マレーシア、カナダ、 ニュージーランド、オーストラリア、 イギリス、アメリカ、シンガポール 他27か国